



花だより 鳥だより



ポロト案内舎 2017年 5月 65号

大型連休までは夏を思わせる好天が続きました。しかし、そのまま暑くならないのが霧多布。中旬以降は天気がぐずつき、寒い日が続きました。それでも、花は咲き、夏鳥たちが次々に訪れ、にぎやかさを増しています。



タンチョウの子育て



大型連休が終わるころは、いつもそわそわしてきます。ポロト沼のタンチョウにヒナが生まれるころだからです。3月末に卵を暖め始め、すでに1か月以上経過しています。もう生まれたらろう？巣を離れて移動する頃だらう？ひょっとして生まれていないのでは？無精卵？などなど、気を揉むことが多いのです。



ヒナを確認できたのは14日。孵化予定日をとっくに過ぎ、あきらめかけていた時でした。親鳥のあとを追いかけるヒナ。沼の対岸なので、小さくて見づらいですが、2羽います。去年は1羽だけでしたので、2羽の誕生は嬉しい限りです。

確認から2週間が過ぎたころには、足取りもしっかりし、自分で食べ物を探すしぐさが見られるよ

うになりました。しかし、大変なのはこれからです。ヒナの旺盛な食欲を満たすために、親は休む間もなく食べ物探しに奔走します。食べることばかりに気を取られていると、オジロワシやキツネなどの天敵に狙われやすくなります。天敵たちはヒナが大きくなるのを待って襲ってきます。ヒナが2羽いる分、狙われる確率も高くなります。周囲の警戒はこれまで以上に厳しくしないと、去年の二の舞になりかねません。朝、2羽のヒナが元気な姿を見せるまでは、落ち着かない気分の毎日です。



花の香りに包まれて



今年もエゾヤマザクラがポロトの森に咲きました。同じ浜中町でも茶内や浜中より1週間から10日は遅い開花です。それだけ海のそばは気温が低いのです。

サクラが咲くと一変することがあります。夜、戸外に出ると甘い香りがするのです。サクラの花の香りだと気づくのに少し時

間がかかりました。昼間も香りは漂っているはずなのですが、他の刺激がありすぎるのか、気づかずに過ごしてしまいます。しかし、夜は濃厚な香りにうっとりさせられます。何度も大きく深呼吸して、花の精を体に取り込んでいます。アマガエルやクイナが鳴き、海鳴りが聞こえてきます。自然の香りと音に包まれる静かな時間が大好きです。



フキノトウはいま



雪どけの4月、大地に真っ先に顔を出したフキノトウ。5月には存在を忘れてしまいがちですが、大きな変身をとげています。

フキノトウはアキタブキの花です。雄花と雌花があります。5月に大きく成長し、たくさんの綿毛をつけているのは雌花。その陰で焦げ茶色に枯れているのが雄花です。もう雄花は役目を終え、消え去るのみで

す。雌花には大切な仕事が残っています。次の子孫を遠くに飛ばすことです。背が高くなるのは、風をつかまえ、綿毛を飛ばし、種を遠く広く拡散させるためです。



毎年繰り返されるフキの営み。それを利用している生き物がいます。写真のベニマシコやカワラヒワです。この小鳥たちは植物の種が大好物。さまざま植物の種を短いくちばしでつぶして食べています。5月はまだ種をつける植物が少ないので、フキは彼らにとって貴重な食糧です。案内舎の庭に生えるフキにも毎日のように訪れ、せっせと食べています。いくら食べても食べつくせない

フキ。食べているそばから、風に吹かれ舞い上がる綿毛。いっせいに顔を出したフキノトウは、いっせいに綿毛を飛ばし、小鳥に食べられる期間を短くしています。



カワアイサのヒナたち



タンチョウのヒナに少し遅れてカワアイサのヒナもポロト沼デビューを果たしました。こちらは10羽以上の大所帯です。

カワアイサはカモの仲間ですが、森の中に卵を産みます。巣の場所は大きな木の洞。フクロウ用の大きな巣箱を利用することもあります。メス親は10個以上の卵を全部産み終え

てから暖め始めます。そうすることで、ヒナがそろって孵り、団体行動ができるようになります。ですから生まれたヒナに、大きさの違いはありません。

ヒナには早速試練が待ちかまえています。木から地面に自力で移動しないと生きていけません。エイヤー、と気合を入れて飛び降りるのです。羽はまだ生えていませんから飛べません。落ちるだけです。でも体は軽いし、ふわふわの産毛に覆われているので、ケガなく着地できます。地面にはメス親が待っています。木から飛び降りるヒナがいなくなったら出発。飛ぶ勇気がないと置いて行



かれます。さらに試練は続きます。沼まで湿原の中を歩いて行くのです。キツネに出会ったら大変です。

沼についたら一安心。ヒナは自分で小魚をつかまえます。泳ぎながら水面に顔を付け、魚を見つけると猛ダッシュ。この時期はサケの稚魚がいるので食べ物は豊富です。泳ぎ疲れたらメス親の背中に上って休むこともあります。メスはユリカモメなどの天敵からヒナ

を守ったり、冷えた体を暖めたりと大忙しです。抱卵からヒナの世話まで、オス親は全く手伝いません。この頃には、多くのオスがポロト沼から姿を消しています。